




「ようこそ、アストラフェルの世界へ
私はフレイヤ、竜騎士で
竜神ヴァルガナス様の巫女
お前をこの世界に召喚した者だ」

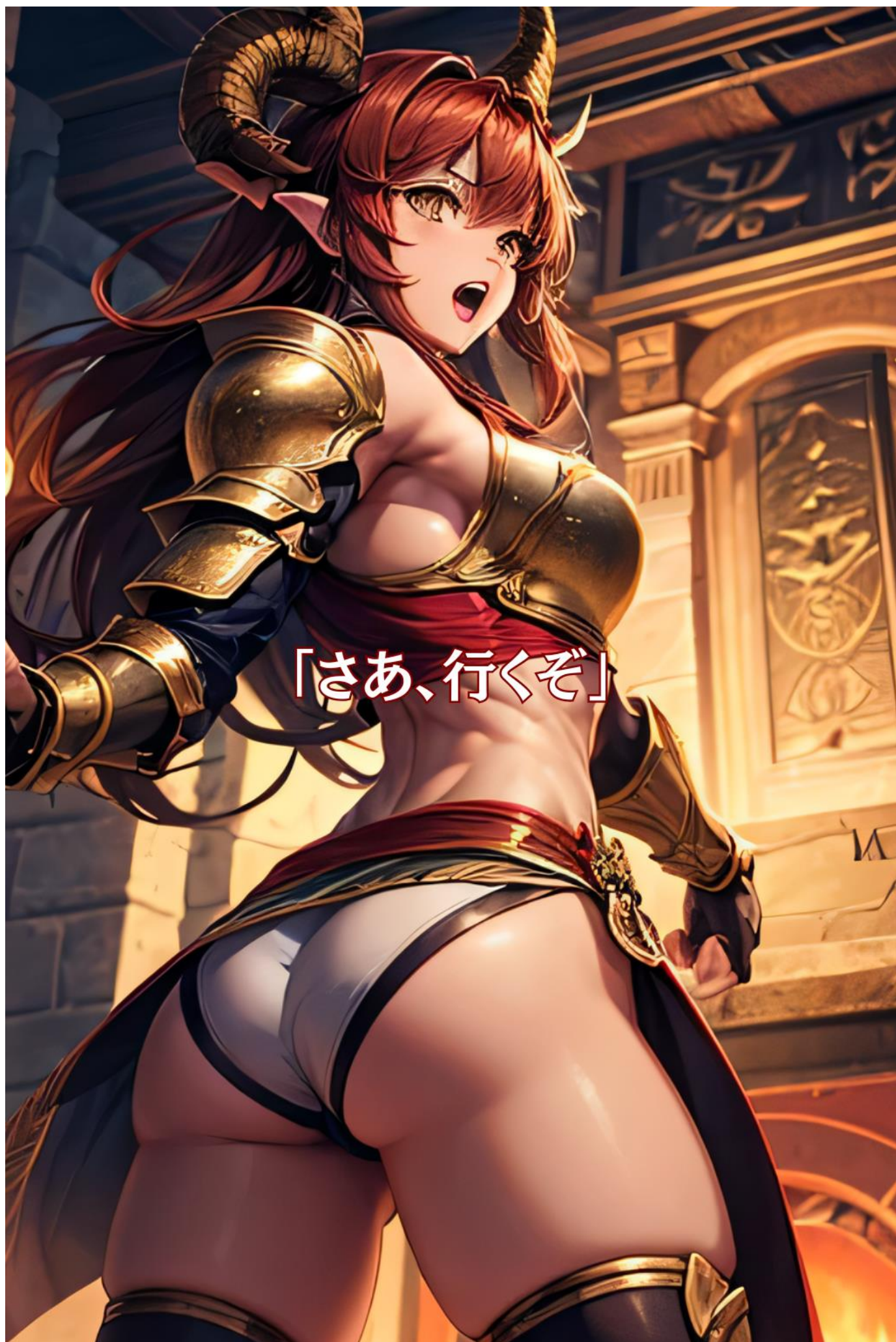


「この世界は三柱の神——
聖光神ルミエル
闇冥神ノクス
竜神ヴァルガナス様が
覇権争いしてる」






「お前をヴァルガナス様
の元へ連れて行く
それが私の使命だ」



「さあ、行くぞ」



「竜騎士なのに、竜に乗らないのか？
すまない、まだ私にはお前を乗せて
飛ぶほどの大きな竜は扱えない
それなのに私が
今回の任務を与えられた」



「ヴァルガナス様に
何かお考えがあるのだろう」



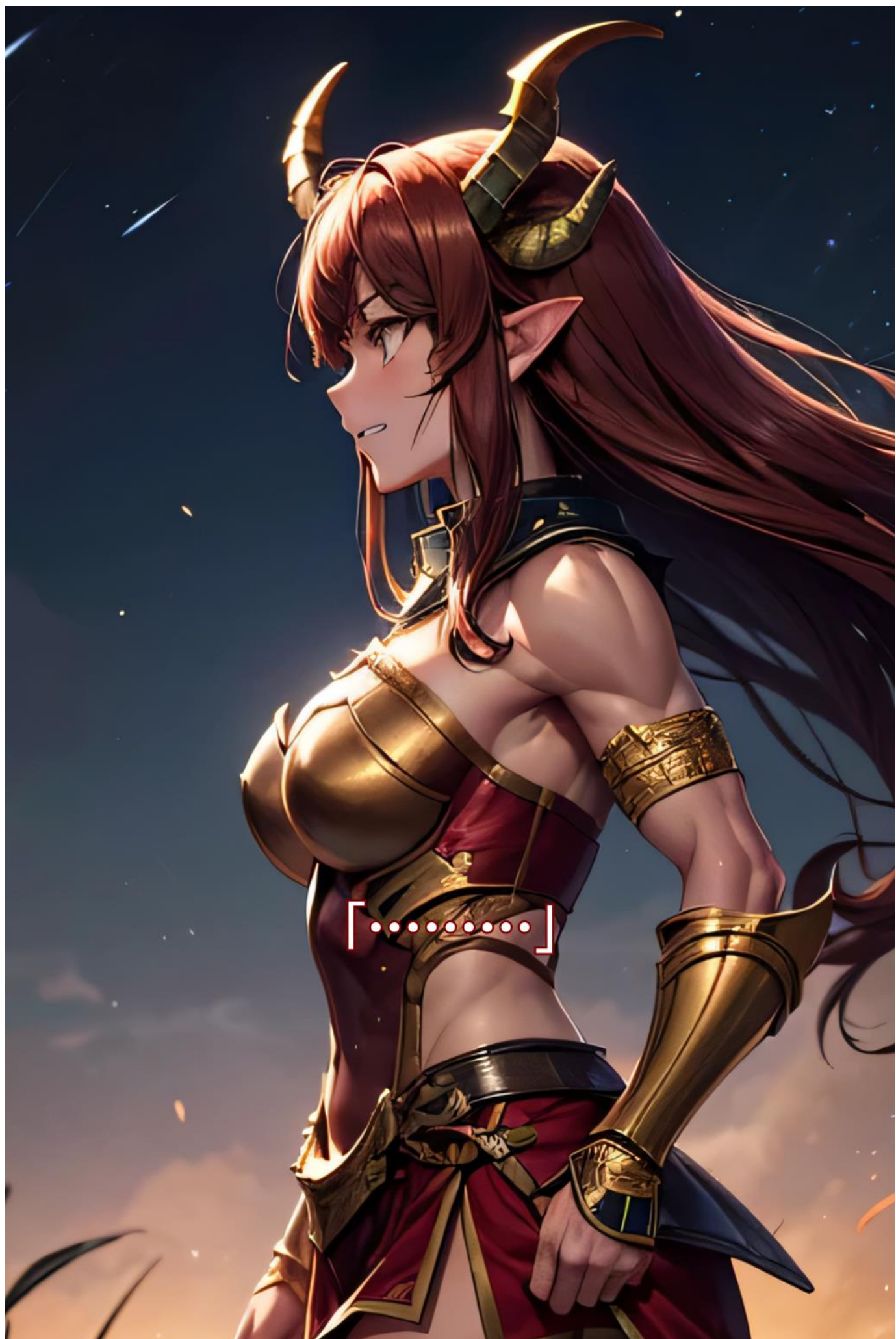
「この命に代えても
お前をヴァルガナス様の元に
連れて行く」



「まずい、日が暮れる
予定より遅れている」



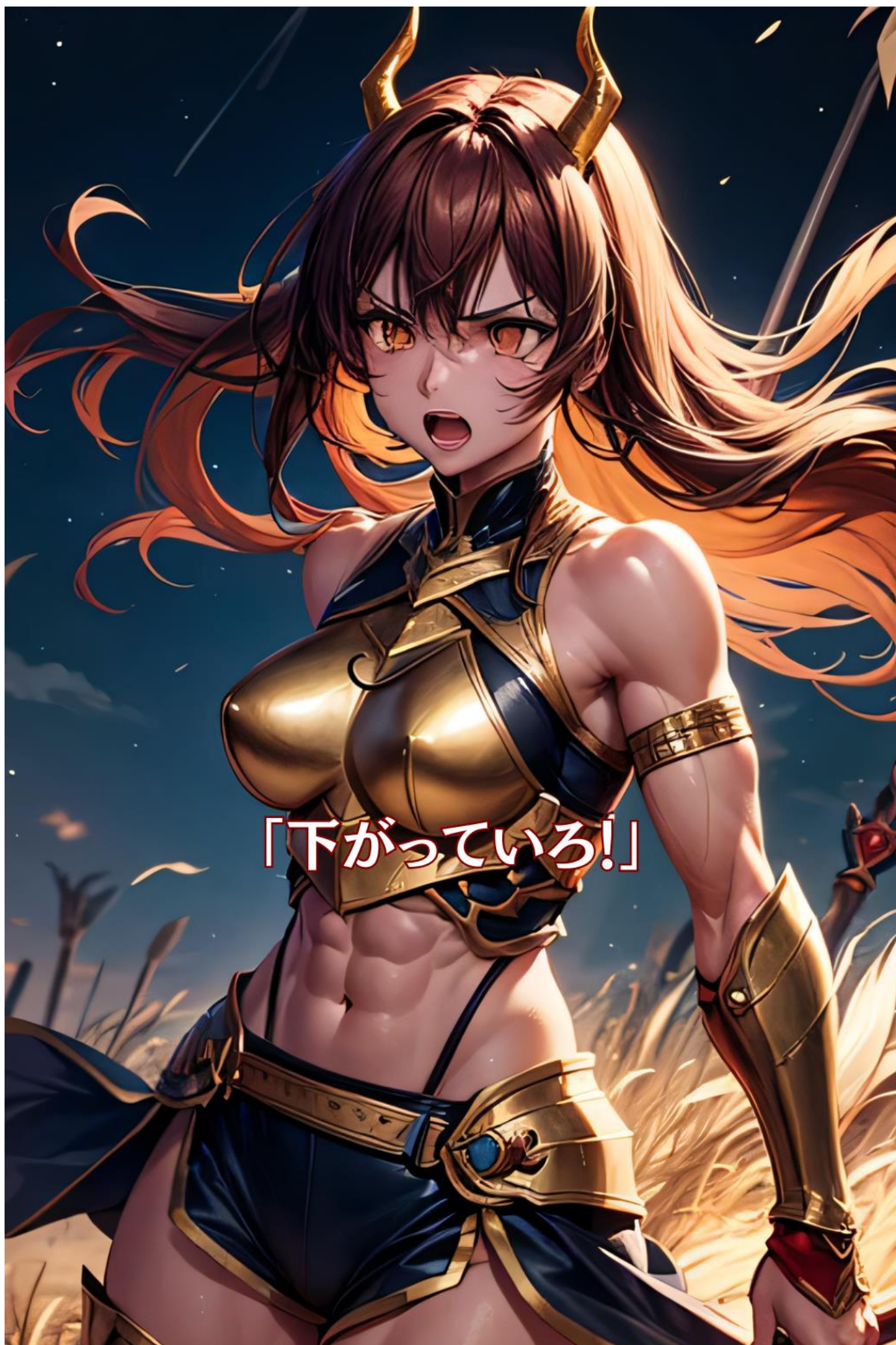
「この辺りは夜になると
魔物が出る」



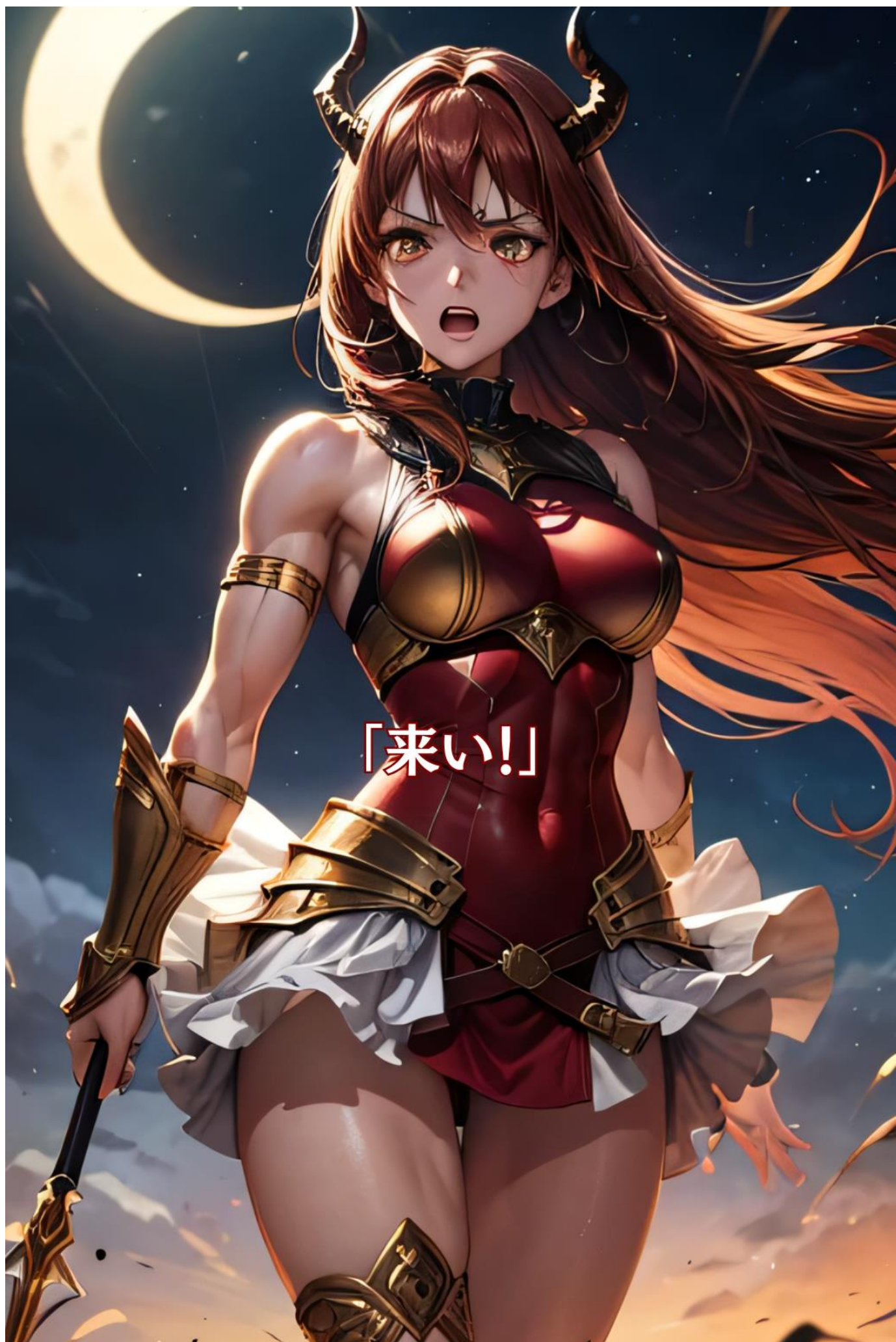


「ギャオオオオ!!」

「ちっ、現れたか!」



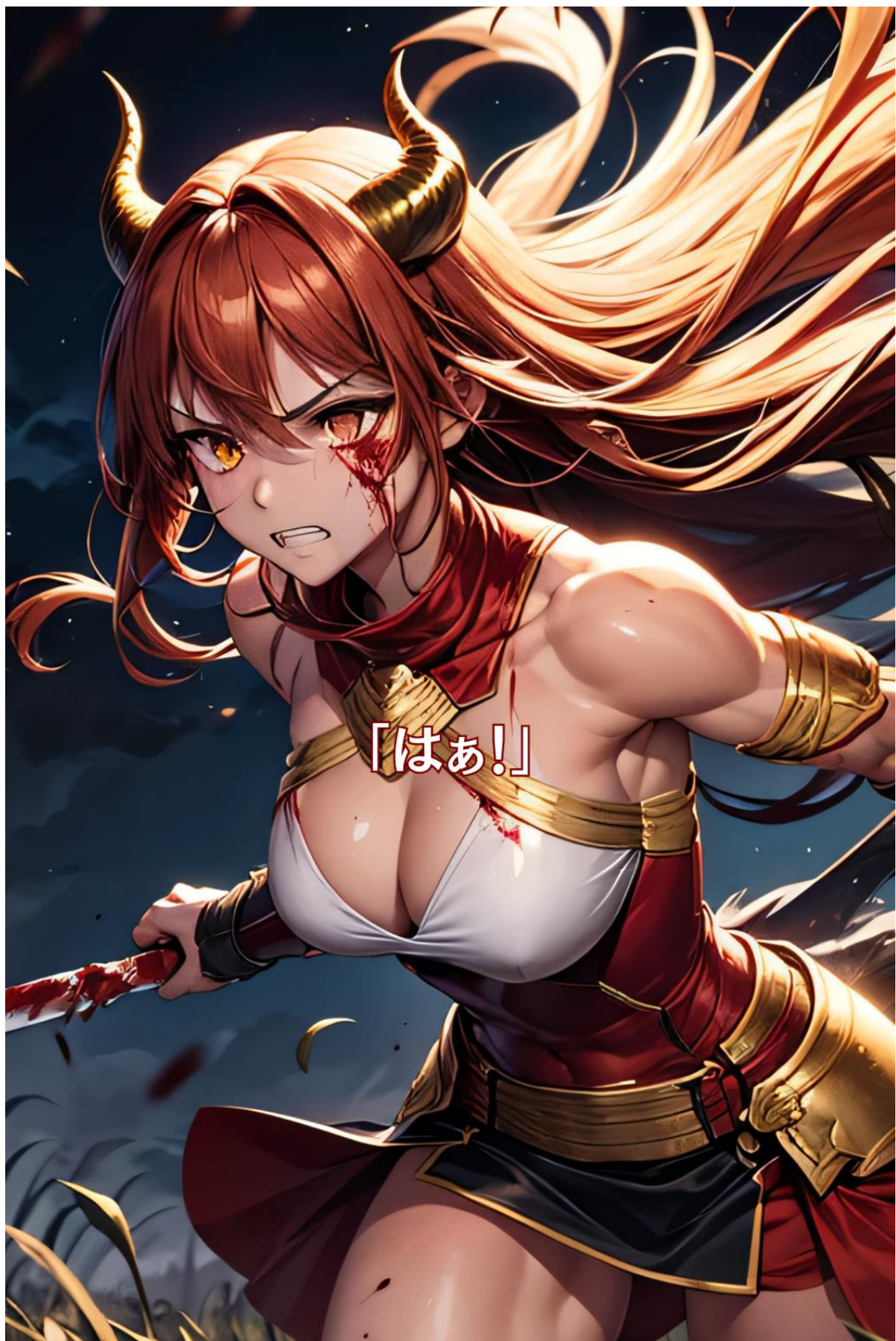
「下がっている！」

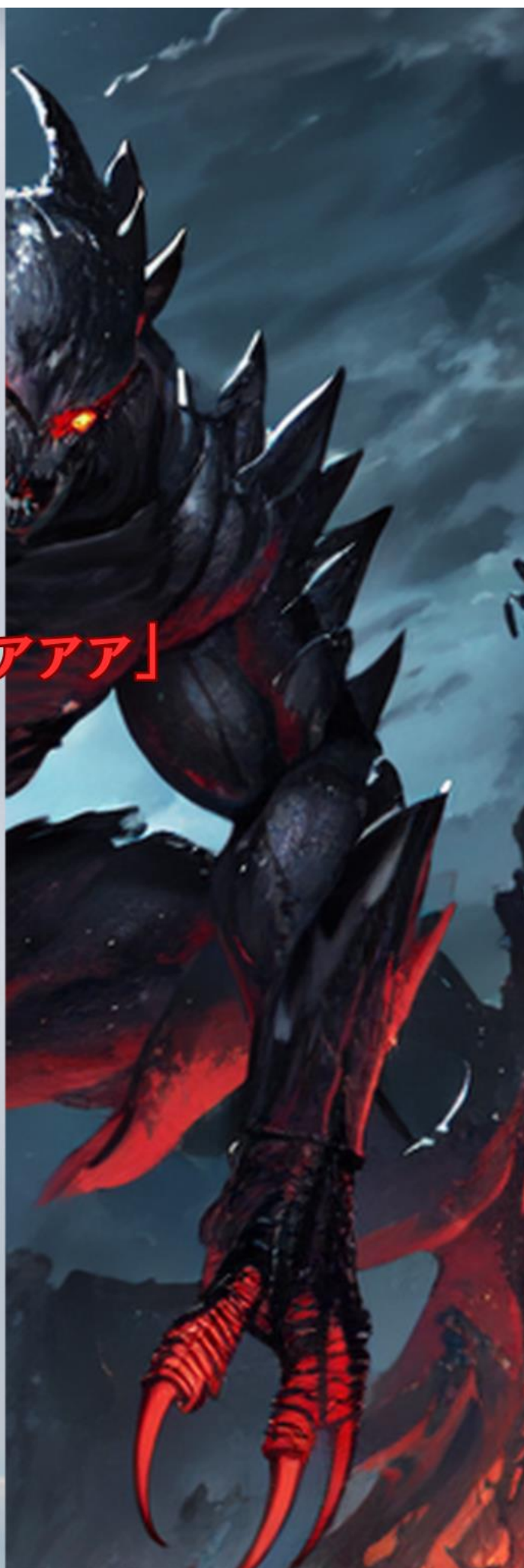


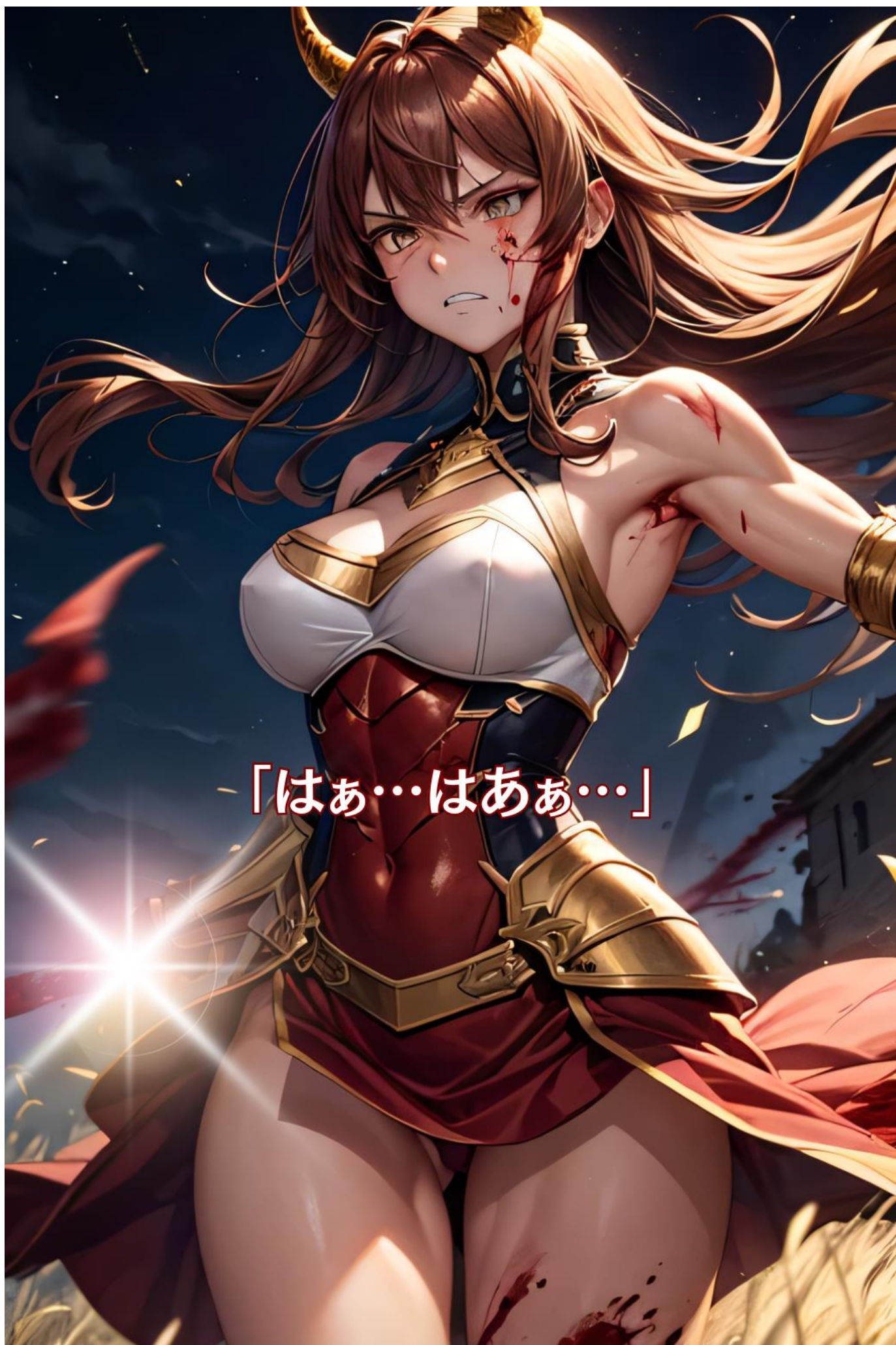
「来い!」



「なっ、速い！」



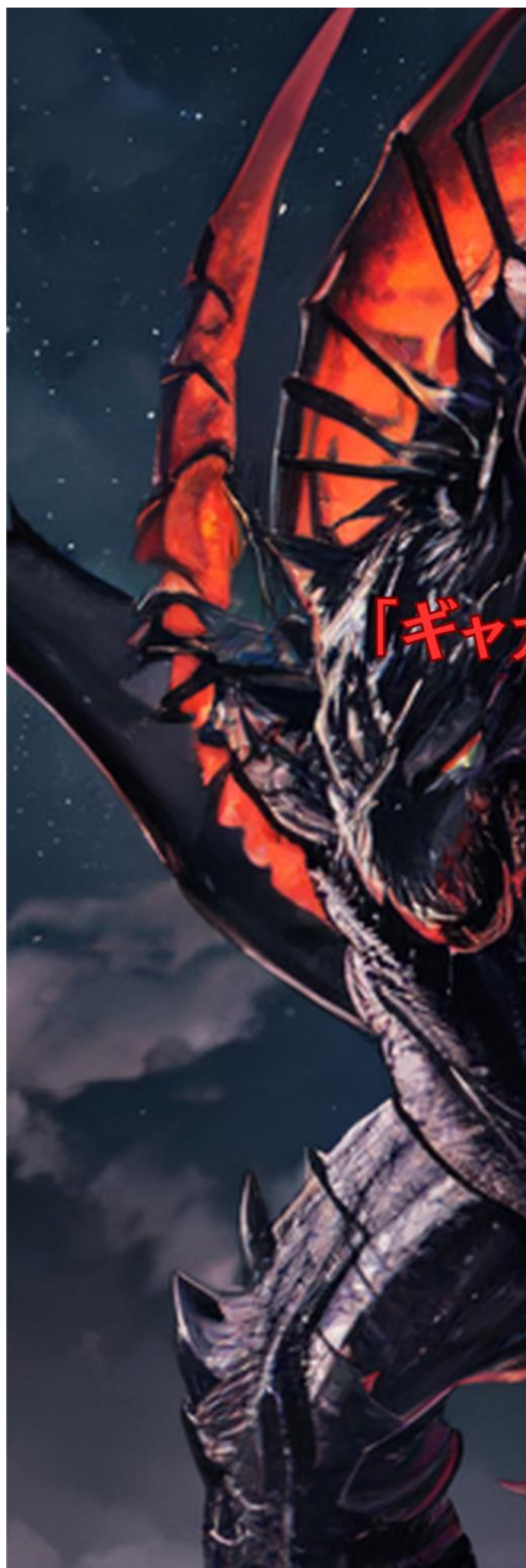




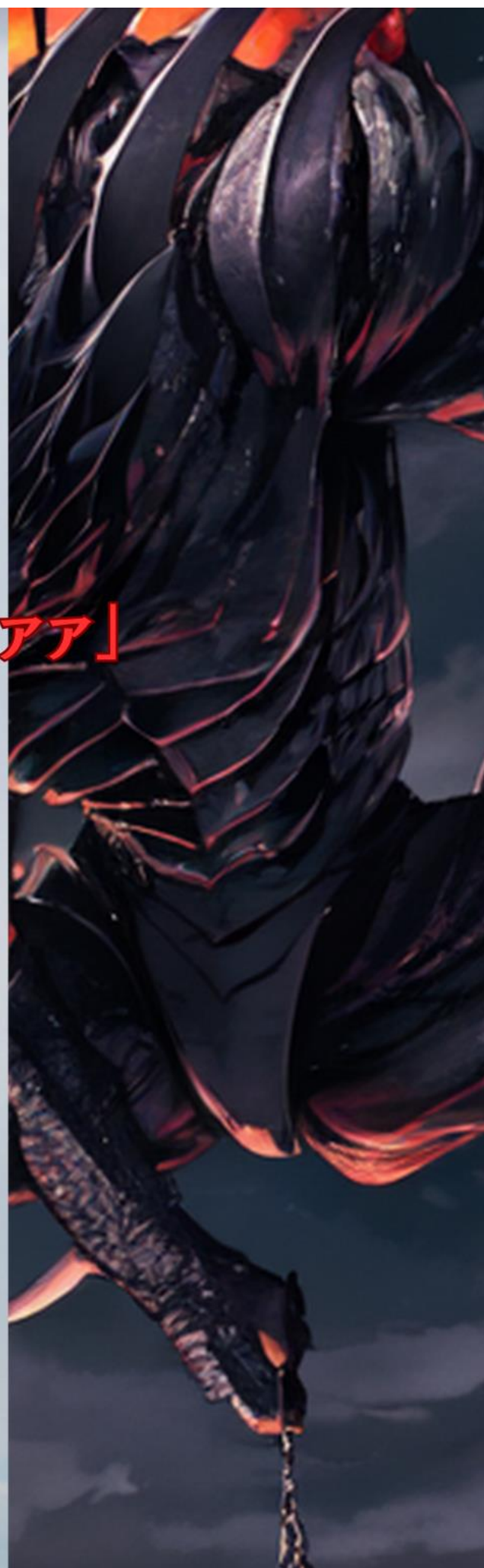
「はぁ…はぁぁ…」



「そこだあ!!」



「ギャアアア」





「やったか…」



「あの程度の魔物に
手こずるとは…」



「心配するな、この程度の傷
ヴァルガナス様のご加護で
すぐに癒える…」



「雨が強くなってきた
雨宿りできる所に急ぐぞ!」





「服を脱げ、乾かすぞ」



「いいか、こっちを見るなよ」



「なに!...寒いだと!」



「お前にもしものことがあったら困る
目を閉じたまま、こっちに来い」



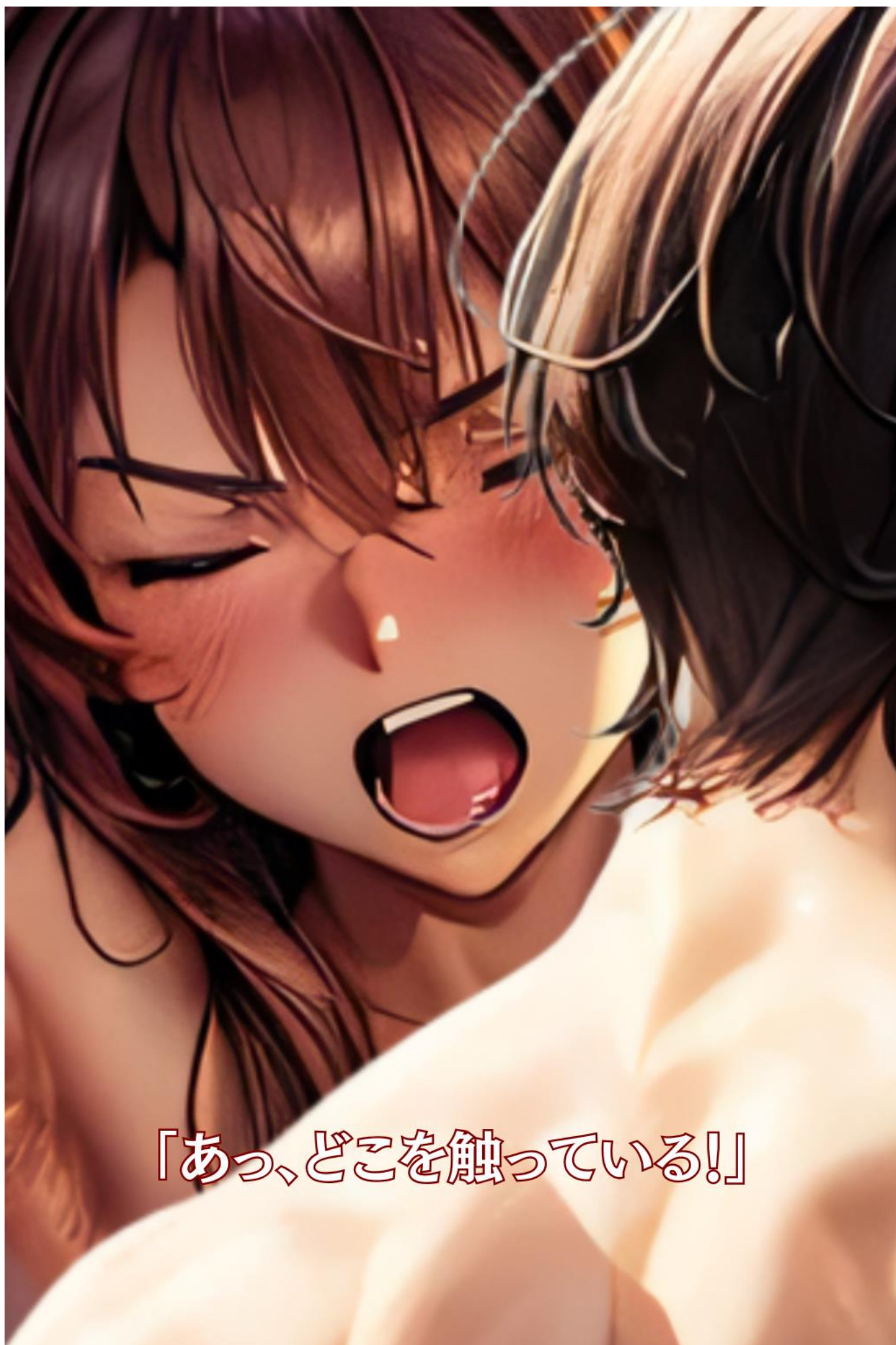
「目を開けるなと言っている！
なに、目を開けないと歩けない…」



「抱きしめて温める
私の身体を触るなよ…」



「早く来い!」



「あっ、どこを触っている!!」



「動かないで、じっとしている」



「なっ、私のお腹に
何か硬いものが当たっている」



「お前
寒いと言うのは嘘だったのか？」



「ああ、疲れた…」



「スースー...」

サンプルは、ここまでです。

続きは、本編をご覧ください。